

自動減容とセンサ技術で 回収頻度を最小化するごみ箱システム

SATテクノロジー・ショーケース2016

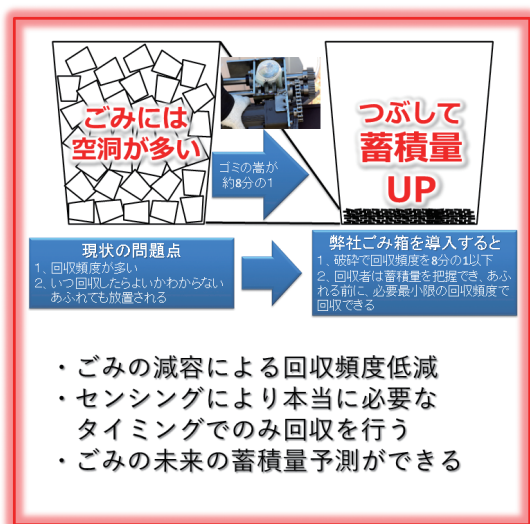
■ 現状の街中のごみ箱の課題

駅、ファーストフード、コンビニ、自動販売機などのごみ箱は、ペットボトルや弁当ガラなどプラスチック容器ごみが約7割を占めている。

これらのごみは、中がほとんど空洞である事からごみ箱があふれやすく、溢れさせない為に頻繁に回収が必要である。



■ 弊社製品による解決策



弊社の開発しているごみ箱では、ごみ箱にごみを入れた瞬間に破砕し小さくすることと、ごみの蓄積量をリアルタイムで検知しサーバーに送信することで、最適な回収ルートのご案内を行います。

これによりごみの回収頻度を最大数十分の一程度まで減らすことが可能となります。

■ 開発中の製品

駅、ファーストフード店、公共施設等様々な場所に設置可能な機種を開発しております。

また、既存のごみ箱に後付できる、センサ単体商品も製品化致します。



■ 特許

特許:出願済 特願 2015-152289

代表発表者 山田 祐輝 (やまだ ゆうき)
所 属 株式会社ノエクス
問合せ先 〒305-0047 茨城県つくば市千現 2-1-6
つくば研究支援センター内
TEL: 0297-37-4798 FAX: 0297-37-4798
E-mail: tsukuba@noex-inc.co.jp

■ キーワード: (1)IoT
(2)ビッグデータ
(3)ごみ

■ 共同研究者: 高橋 賢治(株式会社ノエクス)
谷口 和隆(株式会社ノエクス)